



様々な芸術・文化に
触れる体験

人の心を動かす表現活動を目指して

高等学校

都立北園高等学校



笑顔と学びの体験活動
プロジェクト

概要

文化祭での3年生によるクラス演劇で“人の心を動かす”ことを目指し、ワークショップにて演技・表現方法について具体的なレクチャーを受けた後、文化祭での高校生の演劇と劇場でのプロのミュージカル鑑賞を実施し、自ら感じたことをどのように他者に伝えるかを考える機会とした。

育成を目指す
資質・能力

- ・意欲的にチャレンジし、積極性や主体性を発揮する力
- ・自身の夢や理想の自己実現に向けての意欲
- ・芸術・伝統文化への親しみや興味・関心
- ・自身の想像力や感情を高め、それを他者に伝える表現力

年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月
各教科等				体験① ワークショップを通して表現活動に対する意識を高める。	体験② 同世代の演劇を鑑賞し、より質の高い劇を目指す意欲を高める。			体験③ プロの演技を鑑賞し、表現活動への意識を高める。		4月以降 質の高いクラス劇の制作を目指す。

演劇ワークショップ

音楽座ミュージカルによる演劇ワークショップの実施。ペアで相手へ1分間質問をし続ける「1分間インタビュー」や、自分の好きなことを話し続ける「1分間先生」を行ったり、グループワークで「21」「提灯ゲーム」など様々なワークを行ったりすることでコミュニケーション能力や表現力を高めた。

また、劇団の紹介および12月に鑑賞する演目の説明や歌などの紹介を通して、12月の観劇への意欲を高めた。

ワークショップ後、振り返りとして感想を入力し、生徒全員にフィードバックを行い、今後の演劇鑑賞や自己を表現することへの参考となるようにした。

高校生の演劇を観る

本校の文化祭で実施される3年生のクラス演劇や演劇部公演、他校の文化祭で実施される演劇等、高校生による演劇を鑑賞した。

鑑賞後に、自身で感じたことだけでなく、7月のワークショップの内容を含めて、改善点や自身が演劇を行う際に工夫したい点などを記入させた。

後日、代表的な意見を全体へフィードバックした。また、工夫したい点については、3年次に演劇を実施する際にフィードバックをしていく。

プロの劇場公演を観る

赤坂草月ホールにて音楽座ミュージカルによる「ホーム」を鑑賞した。

本格的な劇場で行われる公演を観ることで、演者の息遣いや表現力を肌で感じる体験を行った。

照明や音響だけでなく、何気ない人の動きや空気の流れなどの臨場感を感じ、キャストの演技だけでなく、多くの人によって1つの舞台が成り立っていることを学んだ。

終了後に鑑賞後の感想だけでなく、印象に残ったキャストとその理由についても記録し、全体で共有するとともに、次年度へ向けたクラス演劇への質の向上につなげる。

体験①概要

体験②概要

体験③概要



【学校・教員】

- ・音楽座ミュージカル担当者と、ワークショップの日程や内容、会場配置などメールによる打合せ。
- ・当日の舞台設営・リハーサルの立ち合い。
- ・学年通信、学年集会にて「3年次の文化祭で人の心を動かす」ことを目標とし、自分が演じる側に立つような意識付けを行う。



【生徒】

- ・1年次に鑑賞した校内公演「リトルプリンス」を振り返ることで、鑑賞したときの感情を想起した。
- ・文化祭等で3年生のクラス演劇を実施している学校の実施例や感想などに触れ、演じる側にも鑑賞する側以上に感動や達成感があることを知る。

- ・ワークショップ実施後、感想を書かせたものを学年全体の生徒にフィードバックし、それぞれが感じたことを共有させた。
- ・探究等の発表の機会に、発声とアクションと感情を交えて人に伝えることの意識付けを行った。



体育館に入った瞬間から既に体験活動が始まっていて、一気に引き込まれる感覚が素晴らしかった。ペアやグループでやることが多く、とても楽しかった。話の中にあつたvoice、action、emotionは演劇だけに限らず面接や日常などそれ以外の場面でも活用出来るもので、とても学びになった。今回のワークショップを通して12月の鑑賞がより楽しみになった。

「Voice」「Action」「Emotion」を体感するワークショップ

- ・生徒入場時からウェルカムパフォーマンスにより、生徒を一気に非日常的な空間へと引き込む。
- ・導入として、ひじの回転や指の運動など、日常では使わない動きを通して、意識的に体を動かすことを意識させる。
- ・ペアワークによる「1分間インタビュー」や「1分先生」でハンドアクションを交えて伝えることや、相槌などのリアクションで相手の言葉を引き出すことなどを体感。
- ・グループによる「ちょうちんゲーム」や、ランダムに他者と被らずに数字を数えていく「21」などを実施し、失敗した時に大げさに悔しがるなど、表現活動について体験的に学んだ。

芸術鑑賞教室への意識付け

- ・12月に鑑賞する「ホーム」のストーリー紹介、歌ナンバーの実演による曲紹介の実施。
- ・後半は、レクチャーを受けて全員で曲を歌い、12月の芸術鑑賞への意欲高揚を図った。





【学校・教員】

- ・3年学年主任とクラス演劇の演目・内容および、生徒へ実施するアンケート項目についての確認。
- ・学年集会や学年通信を通し、本プロジェクトにおける2回目の体験活動の意義や目的の確認を行う。
- ・他校の文化祭日程を提示し、他校生による演劇鑑賞の推奨を行う。



【生徒】

- ・文化祭パンフレットを見て3年生のクラス演劇鑑賞のスケジュールリングを実施。
- ・鑑賞のポイントを確認し、高校生がどのように表現し、伝えようとしているのかや、表現しきれないものや、伝えきれないことについて考える。

鑑賞後に「具体的に印象に残っていること」や「自クラスで演劇をする場合の改善点、参考にすべき点」について記録し、今後、演劇を実施する際に活用できるよう全員へフィードバックするとともに、それぞれが感じたことを共有した。



自分がクラス演劇をやる際は、照明と音楽を使って、ミュージカル要素をもっと混ぜたいと思いました。音楽は人の心を動かすということを7月の音楽座ミュージカルのワークショップで学び、自分たちも見に来てくれた人たちの心を動かせるような劇にしたいと思いました。

北園高校 柊祭における3年生のクラス演劇の鑑賞

身近な高校生のクラス演劇を鑑賞し、以下2点を考えることを通して、3年次のクラス演劇実施への意欲高揚を図った。

- ・「具体的に印象に残っていること」を書くことで生徒自身が観客（伝えられる側）として受けた「Emotion」を具体化させた。
- ・「自クラスで演劇をする場合の改善点、参考にすべき点」を書くことで生徒自身が演者（伝える側）として意識すべき「Voice」「Action」を具体化させた。

北園高校 演劇部の鑑賞

- ・同じ高校生でも発声や演技など日常的に練習を重ねている演劇部の劇を鑑賞することでよりレベルの高い演技に触れる。
- ・7月ワークショップで学んだ内容がどのように生かされているかを学ぶ。



他校のクラス演劇、演劇部の鑑賞

- ・クラス演劇を伝統としている学校では、先輩の演劇が後輩のモチベーションとなることで年々演劇のレベルが上がり、地域や近隣の中学校の関心も高くなっている。また、他校のクラス演劇を鑑賞する際に、演劇だけでなく学校全体の空気を感じることで「伝統は積み重ねて引き継ぐもの」であることを学ぶ。

<他校の演劇を観た生徒の感想>

- ・皆で協力して作品を作り上げることはとても楽しいことだということが伝わってきた。私は、演劇などはあまり見たことがなかったけれど、K高の3年生の演劇を見て、こんなに面白いんだと気づくことができた。実際に、K高の友達は、来年の演劇で裏で支えるのがとても楽しみで監督をやりたいと楽しそうに言っていて、K高にとって演劇がとても大きいイベントだということが分かった。その友達や3年生の演技を見たら、自分達もやってみたいなと感じた。

体験 3回目

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- ・他校での実施例の視察。
- ・音楽座ミュージカル担当者と、集合・開演時間や座席配置などメールによる打合せ。
- ・保護者への鑑賞の案内と募集などについて担当者と調整。
- ・学年通信等による集合時間・場所、座席等の周知。



【生徒】

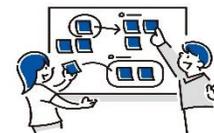
- ・事前に配布されたリーフレットによりストーリーや時代背景について学ぶ。
- ・1年次に鑑賞した「リトルプリンス」と今回の「ホーム」のキャストの対応をさせ、注目したい演者を考える。

事後振り返り

- ・「ホーム」を見ての感想だけでなく、最も印象に残ったキャストとその理由についても記載し、音楽座へ送った。記述する際には、高校生としての視点でとらえられるよう意識させた。
- ・全員分の感想を貼り出し、他生徒が感じたことについて全員で共有した。

成果

- ・1年次より音楽座ミュージカルに関わっていただき、体育館と劇場での演出（大道具や照明など）の違いや、同一の演者でも役によって全く違った印象に見える（役になりきる）ことなど、これまでの芸術鑑賞教室だけではわからないことに多くの生徒が気付くことができた。
- ・ワークショップを通して、人に伝える上で意識すべきことを理解し、探究発表の場や修学旅行でのエイサー体験等、表現活動をするあらゆる場面で積極的に感情を伝えようとする態度が見られた。
- ・次年度9月の文化祭において全クラスでクラス演劇を行い、今回のプロジェクトを通して得たことを基に“人の心を動かすこと”の喜びや、今までにない達成感を感じてくれることを期待したい。



12月6日（木）芸術鑑賞「ホーム」

- 各自で赤坂草月ホールに現地集合し、「ホーム」を鑑賞した。
- ・開演の瞬間から舞台上の空気が変わり、生徒は劇場の音響や照明、風の流れなど「ホーム」の世界観に引き込まれていた。
- ・ストーリーやキャストに感情移入しながらも、音響や照明、演技やダンスや歌唱など、これまでのワークショップで学んだことや、自分たちが演じることを意識した観点で鑑賞することができた。

＜生徒の感想＞

- ・演技は非常に説得力があり、感情表現が細やかで、奥の座席からも登場人物が本当に目の前にいるかのように感じられました。セリフの抑揚や間の取り方も絶妙で、物語の緊張感や温かさを見事に伝えていました。
- ・観客と演者の距離が近かったからこそ、表情の豊かさがダイレクトに伝わった。私たちが3年で劇をやる時も、表情を意識した演技をしたいと思った。屋上からの夕焼け空や夜道の街灯、デモ隊の迫力や熱など、照明によってよく表現されていて、印象に残る要因であった。全体を通して空が印象的に用いられるシーンが多かった。

取組・実践